

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

宮城県 仙台市

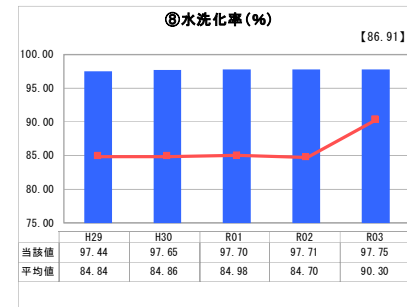
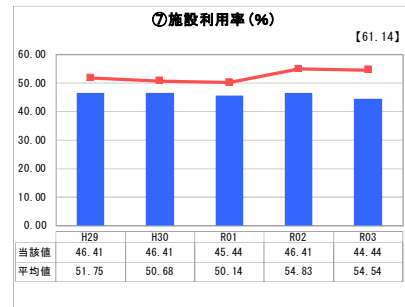
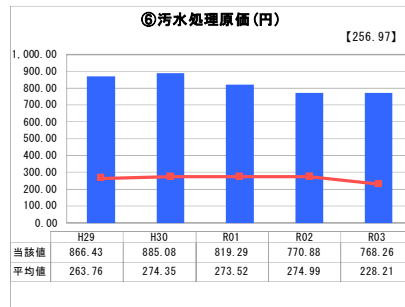
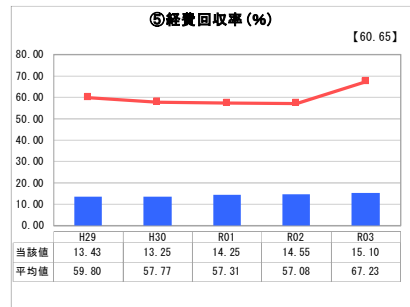
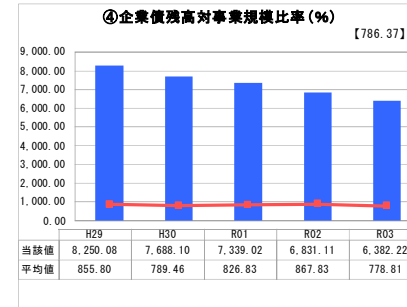
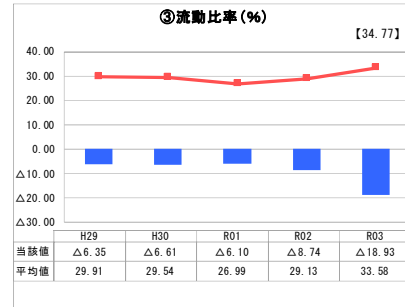
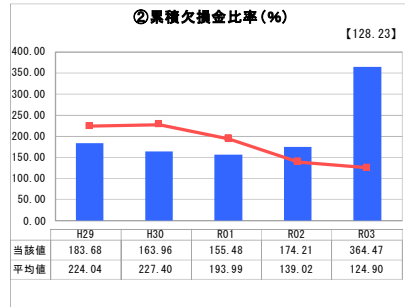
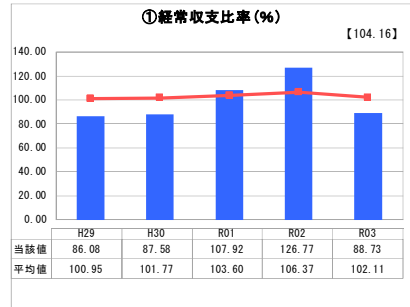
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり重産料金(円)
-	51.66	0.48	79.81	1,917

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,065,365	786.35	1,354.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,062	3.66	1,383.06

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、農業集落における事業であるため事業対象地域の人口密度が低く、維持管理や設備投資などの費用を使用料収入で回収することが困難な状況であり、設備投資などについては一般会計からの補助金で賄うこととしています。なお、一般会計からの補助金は総収益の約半分を占めています。

こうしたことから、数値の算出に当該補助金が含まれない「経費回収率」では類似団体平均を下回っておりですが、当該補助金が含まれる「経常収支比率」ではそれほど大きな差がない状況となっています。

「企業債残高対事業規模比率」は、現状で未だ高い水準にあるものの、今後は、過去に高金利で借り入れた企業債の償還が順次進むため、支払利息の減少により費用が減少し、経営状況の改善が一定程度見込まれます。

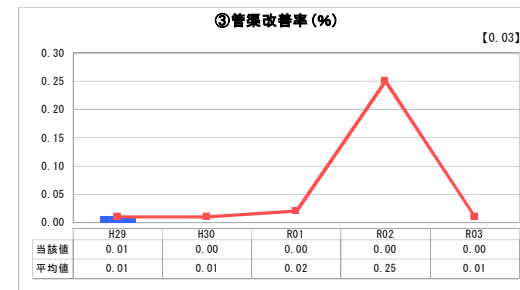
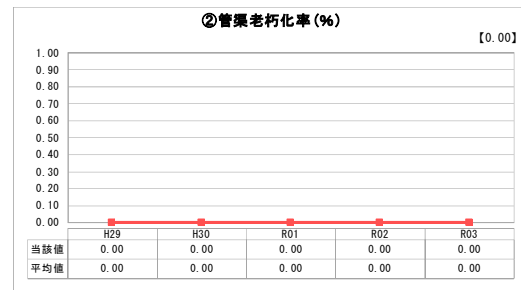
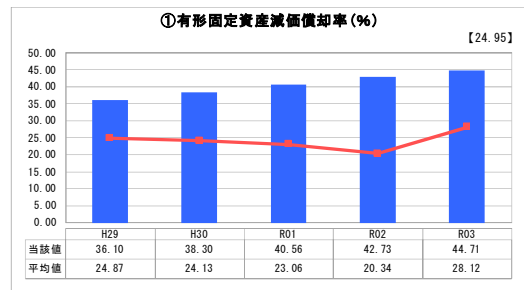
この他、「施設利用率」は、類似団体平均よりも低率で推移しており、より適正な施設規模について検討する必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超過した管渠がないことから、「管渠老朽化率」及び「管渠改善率」については、0で推移しています。

ただし、類似団体平均と比較して「有形固定資産減価償却率」が高くなっており、管渠以外の施設を中心に老朽化が一定程度進んでいる状況にあります。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

本事業の性質上、赤字経営となりやすい傾向にありますが、公共下水道を中心とした下水道事業全体で経営を行っているため、経営に問題は生じておりません。

しかしながら、本事業においても収支差を縮小させるため、施設の再編等を含めたより適切な施設のあり方を検討するなど、費用の低減に努める必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。